

「井の中から出たかわず」

禹秀彬

日本へ来る前の私は学校内で評判がよい学生でした。友達も多かったし、成績もよかったので先生たちに「まじめな人だね。」とよく言われました。未来を差して進む順調な毎日でした。しかし、お父さんが日本の会社で働くようになって学校をやめなければなりませんでした。私にとって学校をやめるのは今までよくできた事を全部捨てるのと同じ意味だと思いました。もうちょっと行ったらゴールなのにゴールが見えない他の道に押される感じでした。そのときは毎日が「不安」、そのものでした。学校をやめて日本へ来てから、その「不安」は倍になりました。学校に通ったときに戻りたかったです。しかし、日本語学校に通ってから私の考えはだんだん変わっていききました。自分自身が一番びっくりしたのは日本語の勉強が思ったより楽しくて習い安かったことです。初めて、学びの楽しさ

を感じました。そして、歳と国籍を越えてい
るいろいろな人と友達になるのも楽しいでした。
留学する前の私は井の中がわずだったと思
います。私にとって井戸は学校でした。その
井戸は丈夫で安全な所でした。井戸の外へ出
たらきついと思いました。しかし、私が留学
しながら思ったのは「出るまでには外がどん
な所かわからない」です。そして、「結果が
なくなっても自分は変わらない。自分自身を
信じて頑張れば、また明るい未来が見える。
」だと思いました。たぶん私は勇気が足りな
かったかも知れません。それで、今の私はそ
のときの私と留学するのを迷っている人たち
に先輩としてこういう一言を言いたいです。
「まずその井戸から出て。そこから新しい一
歩が始まるから。」